

## イノベティブ・カーボンニュートラル戦略ファンド

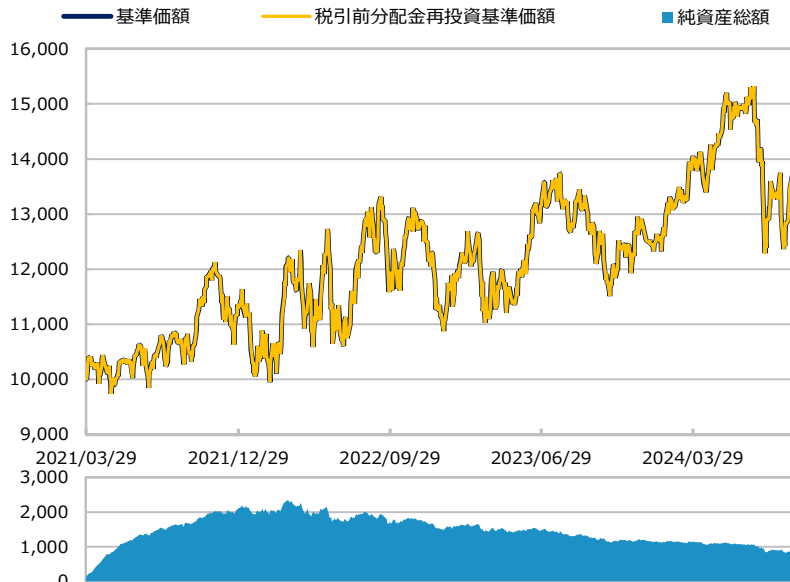
【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／株式

作成基準日：2024年09月30日

ファンド設定日：2021年03月30日

日経新聞掲載名：カーボン戦略

## 基準価額・純資産総額の推移（円・億円）



- グラフは過去の実績を示したものであり将来の成果をお約束するものではありません。
- 基準価額は信託報酬控除後です。信託報酬は後述の「ファンドの費用」をご覧ください。

## 基準価額・純資産総額

	当月末	前月比
基準価額（円）	13,770	+384
純資産総額（百万円）	90,807	+822

- 基準価額は10,000口当たりの金額です。

## 騰落率（税引前分配金再投資）（%）

	基準日	ファンド
1 カ月	2024/08/30	2.9
3 カ月	2024/06/28	-8.2
6 カ月	2024/03/29	-1.9
1 年	2023/09/29	7.2
3 年	2021/09/30	30.1
設定来	2021/03/30	37.7

- ファンドの騰落率は税引前分配金を再投資した場合の数値です。
- ファンド購入時には購入時手数料、換金時には税金等の費用がかかる場合があります。
- 騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。

## 最近の分配実績（税引前）（円）

期	決算日	分配金
第1期	2022/04/07	0
第2期	2023/04/07	0
第3期	2024/04/08	0
設定来累計		0

- ※ 分配金は10,000口当たりの金額です。過去の実績を示したものであり、将来の分配をお約束するものではありません。

## 資産構成比率（%）

	当月末	前月比
組入マザーファンド	100.6	+0.2
現金等	-0.6	-0.2
合計	100.0	0.0

- ※ 組入マザーファンドの正式名称は「イノベティブ・カーボンニュートラル戦略マザーファンド」です。

## 運用概況

当月末の基準価額は、13,770円（前月比+384円）となりました。  
また、税引前分配金を再投資した場合の月間騰落率は、+2.9%となりました。

※ この資料の各グラフ・表に記載されている数値は、表示桁未満がある場合は四捨五入して表示しています。  
※ この資料に記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全てファンドの純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



# イノベティブ・カーボンニュートラル戦略ファンド

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／株式

作成基準日：2024年09月30日

※ このページは「イノベティブ・カーボンニュートラル戦略マザーファンド」について、ヴォヤ・インベストメント・マネジメント・カンパニー・エルエルシーから提供を受けたデータおよび情報を基に記載しています。

## 資産構成比率 (%)

	当月末	前月比
株式	97.6	-0.6
超大型	31.8	+0.1
大型	54.0	+0.7
中型	11.5	-1.4
小型	0.2	+0.0
先物	0.0	0.0
現金等	2.4	+0.6
合計	100.0	0.0

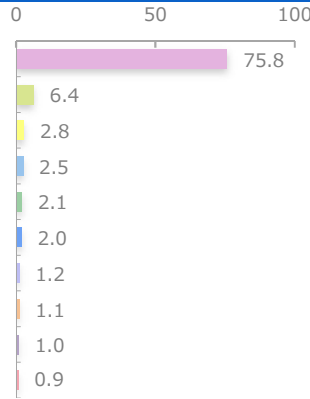
※ ヴォヤ・インベストメント・マネジメント・カンパニー・エルエルシーによる分類です。

## 組入上位10通貨 (%)

	当月末	前月比
1 アメリカドル	82.1	-0.7
2 日本円	6.4	-0.3
3 ユーロ	3.3	+0.0
4 中国元	1.7	+0.4
5 カナダドル	1.2	+0.1
6 ノルウェー クローネ	1.1	-0.1
7 韓国ウォン	1.0	+0.1
8 デンマーク クローネ	0.9	-0.0

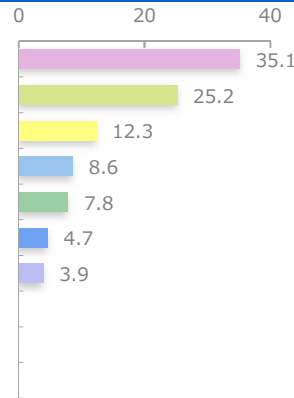
## 組入上位10カ国・地域 (%)

	当月末	前月比
1 アメリカ	75.8	-0.7
2 日本	6.4	-0.3
3 中国	2.8	+0.4
4 イタリア	2.5	+0.1
5 カナダ	2.1	+0.1
6 台湾	2.0	+0.0
7 ザンビア	1.2	+0.1
8 ノルウェー	1.1	-0.1
9 韓国	1.0	+0.1
10 デンマーク	0.9	-0.0



## 組入上位10業種 (%)

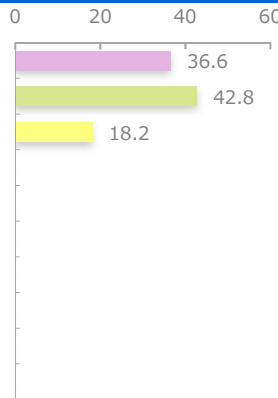
	当月末	前月比
1 情報技術	35.1	-0.9
2 資本財サービス	25.2	+1.0
3 素材	12.3	-0.4
4 エネルギー	8.6	-0.6
5 一般消費財サービス	7.8	+0.1
6 金融	4.7	-0.2
7 公益事業	3.9	+0.4



※ 業種はGICS（世界産業分類基準）による分類です。

## 投資テーマ別構成比率 (%)

	当月末	前月比
産業用エネルギー転換	36.6	-0.5
クリーン・エネルギー生成	42.8	+0.4
交通・輸送の変革	18.2	-0.4



※ ヴォヤ・インベストメント・マネジメント・カンパニー・エルエルシーによる分類です。

※ このページに記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全て組入マザーファンドの純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用

## イノベティブ・カーボンニュートラル戦略ファンド

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／株式

作成基準日：2024年09月30日

※ このページは「イノベティブ・カーボンニュートラル戦略マザーファンド」について、ヴォヤ・インベストメント・マネジメント・カンパニー・エルエルシーから提供を受けたデータおよび情報を基に記載しています。

## 組入上位5銘柄

(組入銘柄数 71)

銘柄	国・地域 業種	投資テーマ	比率 (%)	コメント
1	クアンタ・サービーズ アメリカ 資本財サービス	産業用エネルギー転換	4.0	電力やコミュニケーション・サービスのエンド市場向けにインフラ・ソリューションを提供する特殊工事請負会社。産業が二酸化炭素排出量を削減していくためには、産業を支える電力インフラの大幅なアップグレードが必要であり、同社はそれを可能とする重要なエンジニアリングや建設ソリューションを提供しているため、産業用エネルギー転換に分類。電気自動車や再生可能エネルギー導入の増加に伴い電力インフラのアップグレード需要も増えていることから、同社はその恩恵を受けるとみている。
2	ベーカー・ヒューズ アメリカ エネルギー	産業用エネルギー転換	2.9	原油や天然ガスの探鉱、掘削、生産から天然ガスの液化、発電所へのパイプライン輸送などでの幅広い製品やサービスを提供。同社のエネルギー機器やサービスは炭素回収と貯留・貯蔵で利用されるため、産業用エネルギー転換に分類。同社はターボ機械とプロセス・ソリューション部門を通じて炭素回収や水素のメガプロジェクト向けに重要な機器を提供し、脱炭素経済に寄与しているとみている。エネルギー転換により液化天然ガスへのエクスポージャーを拡大しており、従来のエネルギー部門と比較し、より安定した収益構造になるとみている。
3	リンデ アメリカ 素材	産業用エネルギー転換	2.8	産業ガスの生産や、空気分離などの産業ガス用の設備の製造を行っている。顧客はヘルスケア、飲食、電子機器、製造業、化学、鉱業など多岐の業種にわたる。産業プロセスから二酸化炭素を回収するためのソリューションを提供するなど、同社の産業ガスのテクノロジーは、産業プロセス全体の二酸化炭素の排出の減少に寄与するとみて、産業用エネルギー転換に分類。また、水素の生成だけでなく貯蔵や輸送も提供しており、同社の技術が水素経済の実現に向けて重要な役割を果たしていくと考えている。
4	ブロードコム アメリカ 情報技術	産業用エネルギー転換	2.8	幅広いエンド市場向けに半導体を設計する大手ファブレス企業であり、企業向けソフトウェアやセキュリティ・ソリューションも提供。同社は、コンピューティングおよびネットワーク向けにエネルギー効率に優れたシリコン・ソリューションを幅広く提供し、顧客の炭素排出量の管理やエネルギー効率の最適化を支援しているため、産業用エネルギー転換に分類。また、VMwareの仮想化ソフトウェアも提供しており、物理的なサーバーと比較し顧客の消費電力削減に貢献していることも評価している。
5	ファースト・ソーラー アメリカ 情報技術	クリーン・エネルギー生成	2.8	業界主流のシリコンを原料とせず、テルル化カドミウムを使用した薄膜太陽光発電モジュールを生産。太陽光発電プロジェクト向けの太陽光発電モジュールを製造しているため、クリーン・エネルギー生成に分類。同社の薄膜太陽光発電モジュールは、従来のシリコン・ベースのものに比べ生産時の炭素集約度が低く、高性能であるとみている。また、同社は米国の太陽光発電プロジェクトの成長やインフレ削減法から恩恵を受けると考えている。

※ このページに記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全て組入マザーファンドの純資産総額を100%として計算した値です。

※ 組入銘柄の紹介を目的としており、記載銘柄の推奨を行うものではありません。また、記載内容は作成時点のものであり、将来予告無く変更されることがあります。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

## イノベティブ・カーボンニュートラル戦略ファンド

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／株式

作成基準日：2024年09月30日

※ このページは「イノベティブ・カーボンニュートラル戦略マザーファンド」について、ヴォヤ・インベストメント・マネジメント・カンパニー・エルエルシーから提供を受けたデータおよび情報を基に記載しています。

## 組入上位6～10銘柄

(組入銘柄数 71)

銘柄	国・地域 業種	投資テーマ	比率 (%)	コメント
6	モリシック・パワー・システムズ アメリカ 情報技術	産業用エネルギー転換	2.7	自動車、産業、通信、コンピューティング、家電などで利用される多くのアプリケーションの電力エネルギー効率を高めるミックスド・シグナルやアナログ・マイクロチップを製造。電力消費を削減し、ゼロ・カーボン・インフラの実現を支援する電源管理ソリューションを提供しているため、産業用エネルギー転換に分類。同社は特に、データセンター、通信インフラ、自動車、再生可能エネルギー分野に電力効率化ソリューションを提供しており、カーボン・フットプリントの削減を支援していることを評価。
7	トヨタ自動車 日本 一般消費財サービス	交通・輸送の 変革	2.7	世界的大手自動車メーカー。ハイブリッド車（HEV）、プラグイン・ハイブリッド車（PHEV）、バッテリー電気自動車（BEV）、燃料電池自動車（FCEV）の製造に注力しており、輸送業界の変革に寄与するとみて交通・輸送の変革に分類。同社は2050年までに自動車のライフサイクル全体でのカーボン・ニュートラルを目指していることや、HEV、PHEV、BEVの間で注力車を変更できる開発・製造プラットフォームを通じて、製品の脱炭素化を実現する体制を整えていることを評価している。
8	日立製作所 日本 資本財サービス	クリーン・エネルギー生成	2.6	官公庁や企業向けにITサービスやDXソリューション、エネルギー・ソリューション、鉄道システム、昇降機やビルサービス、家電、空調システムなど、幅広い製品やサービスを提供。同社が電力インフラなどの分野の大手企業として、顧客と協同しクリーン・エネルギーへの転換を推し進めているとみており、クリーン・エネルギー生成に分類。また、同社はグリーン・エネルギー＆モビリティ分野に注力し、送電網、原子力、クリーン・エネルギー・ソリューション、鉄道システムなどを提供し、持続可能な社会の実現に貢献していると考えている。
9	プリミアン イタリア 資本財サービス	クリーン・エネルギー生成	2.5	海底送電ケーブルや光ファイバーなど、エネルギーや通信分野で使用されるケーブルの開発、敷設を行う。主に、洋上風力発電で作られた電力を電力網に送電するために利用される海底および地上ケーブル・ソリューションを提供しているため、クリーン・エネルギー生成に分類。また、同社のスマート・グリッドやエネルギー貯蔵に関するイノベーションが再生可能エネルギー・システムの効率と信頼性の向上に貢献していると考えている。
10	フリーポート・マクモラン アメリカ 素材	産業用エネルギー転換	2.4	北米、南米、インドネシアなどで、銅、金、モリブデンなどの採掘を行う。銅の採掘における世界的大手であるため産業用エネルギー転換に分類。銅は電気自動車、太陽光発電システム、風力発電システム、電力網の最適化などで利用され、エネルギー転換、ネット・ゼロ・カーボンの目標を実現するための重要な素材となっているとみている。

※ このページに記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全て組入マザーファンドの純資産総額を100%として計算した値です。

※ 組入銘柄の紹介を目的としており、記載銘柄の推奨を行うものではありません。また、記載内容は作成時点のものであり、将来予告無く変更されることがあります。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

## イノベティブ・カーボンニュートラル戦略ファンド

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／株式

作成基準日：2024年09月30日

※ このページは「イノベティブ・カーボンニュートラル戦略マザーファンド」について、ヴォヤ・インベストメント・マネジメント・カンパニー・エルエルシーから提供を受けたデータおよび情報を基に記載しています。

## ファンドマネージャーコメント

## ＜市場動向＞

FRB（米連邦準備制度理事会）が市場予想を上回る下げ幅で約4年半ぶりとなる利下げを決定したこと等を受けて、9月の世界の株式市場は概ね上昇しました。S&P500インデックスは月末には過去最高値を更新し、ナスダック総合指数も7月のピークに迫りました。米大統領選挙まで残すところ数週間となり、カマラ・ハリス副大統領が、ドナルド・トランプ氏を全体ではリードしていますが、7つの激戦州ではどちらの候補者がより多く選挙人を獲得できるか僅差で競りあっています。9月下旬には、中国人民銀行（中央銀行）と中国政府が一連の追加刺激策を発表し、特に中国株式に対するセンチメント（心理）が一段と改善し、同国株式は急騰しました。米国の8月の消費者物価指数は、7月の前年比+2.9%から低下し、同+2.5%となりました。9月のFOMC（米連邦公開市場委員会）でFRBは通常の0.25%より大きい0.5%の利下げを決定し、この規模での利下げは2020年3月のパンデミック（世界的大流行）初期以来となりました。政策当局者は年末までにさらに0.5%、翌年も利下げを行う可能性が高いと示唆しました。欧州中央銀行も今年2度目となる利下げを決定し、イングランド銀行は政策金利を据え置いたものの、緩やかな利下げの道筋にあることを示唆しました。日銀も政策金利を据え置きましたが、中国人民銀行は景気や不動産セクターを下支えするため、銀行の預金準備率やローン利率の引き下げを含む景気刺激策を発表しました。

米国経済の健全性が懸念されるなか、ブレント原油（北海で産出される原油で欧州の原油価格の指標）価格は下落しました。サウジアラビアは、市場シェアを取り戻すため12月に増産を行う計画があると示唆しました。その他、銅などの工業用金属の価格は、中国の大規模な景気刺激策の発表後、上昇しました。また、先行き不透明な時期に相対的に安全資産と捉えられる金の価格は上昇し、初めて1オンス2,600米ドルを上回りました。世界株式（MSCI ACWI）のセクター別では、景気が軟着陸するとの期待の高まりや中国の景気刺激策に関するニュースにより、一般消費財・サービスや素材が堅調となりました。一方、エネルギーやヘルスケアが相対的に出遅れました。

脱炭素に関するニュース面では、世界原子力産業現状報告書（World Nuclear Industry Status Report）の2024年版が発表され、世界の設置済み太陽光発電能力は現在、原子力発電の約5倍に達していることが明らかになりました。また、カリフォルニア州公益事業委員会（California Public Utilities Commission）は、新規電力サービスの通電プロセスを早めるよう命令を出しました。同委員会は、この命令により新たな通電目標とスケジュールを導入し、住宅、事業所、電気自動車の充電器の送電網への接続を迅速に進めることを目指しています。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

## イノベティブ・カーボンニュートラル戦略ファンド

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／株式

作成基準日：2024年09月30日

※ このページは「イノベティブ・カーボンニュートラル戦略マザーファンド」について、ヴォヤ・インベストメント・マネジメント・カンパニー・エルエルシーから提供を受けたデータおよび情報を基に記載しています。

## ファンドマネージャーコメント

## ＜運用状況＞

9月の当戦略のパフォーマンスは、MSCI AC World指数を上回りました。高機能な素材や特殊化学品に関する銘柄が堅調となり、産業用エネルギー転換のテーマが市場全体をアウトパフォームしました。エネルギー貯蔵に関する銘柄が好調となったことを受けて、クリーン・エネルギー生成のテーマもアウトパフォームしました。交通・輸送の変革のテーマは、代替燃料関連銘柄が軟調となり、アンダーパフォームしました。

個別銘柄では、リチウム電池などを製造するコンテンポラリー・アンペレックス・テクノロジーや、二酸化炭素を排出しない電力を生産するコンステレーション・エナジーがプラス寄与しました。一方、統合型ソーラー・トラッカーのネクストラッカーや、太陽光発電産業向けにマイクロインバータを提供するエンフェーズ・エナジーがマイナスに寄与しました。

## ＜市場見通しと今後の方針＞

株式市場の中長期的な見通しについてはポジティブな見方を維持します。しかし、市場が追加的なリスクを消化するにつれ、短期的には市場のボラティリティ（価格変動性）が高まる可能性があるかとみています。市場の関心は、足元の雇用統計の軟化や個人消費の低迷、利下げタイミングの遅れによる米国の景気減速の可能性に集まっています。また、米大統領選が接戦となっていることも、特に地政学や世界のサプライチェーン（供給網）を巡る不透明感を拡大させており、市場のボラティリティをさらに高めています。8月に見られた円キャリートレード（低金利の通貨で資金を調達して高金利の通貨やリスク資産へ投資する行動）の解消も市場のボラティリティを高めました。日銀は必要に応じて今後の利上げを遅らせると概ね予想されているため、懸念は和らいでいるとみています。企業収益は年初来で概ね底堅く推移しており、市場は今後の7-9月期の業績と見通しを注視しています。ボラティリティが高い中、適切な銘柄選択と確信度の最も高い投資アイデアを組み合わせて、ポートフォリオがより良いポジションにあるよう調整することを目指していきます。

インフレ率がFRBの目標とする2%へ向かっており、雇用統計も軟化しているため、FRBは金融政策の正常化に向けてより動きやすい状況にあると思われます。9月のFOMCで、FRBはFF（フェデラルファンド）金利を0.5%引き下げ、利下げに方向転換しました。パウエルFRB議長は、この決定を、インフレ率が目標とする2%に向けて低下するなかで、緩やかでありながらも成長を続ける労働市場の健全性を維持するための政策スタンスの調整を反映するものであると強調しました。インフレのリスクが和らいだため、FRBは雇用の最大化という目標を追求する余地が大きくなりました。金融政策の緩和は景気回復を支えていきますが、効果が表れるまでには時間がかかる可能性があります。米大統領選挙によってボラティリティが高まる可能性があります。引き続き米国経

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

## イノベティブ・カーボンニュートラル戦略ファンド

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／株式

作成基準日：2024年09月30日

※ このページは「イノベティブ・カーボンニュートラル戦略マザーファンド」について、ヴォヤ・インベストメント・マネジメント・カンパニー・エルエルシーから提供を受けたデータおよび情報を基に記載しています。

## ファンドマネージャーコメント

済の底堅さ、企業の利益成長、今後数年間のAIイノベーションに対してポジティブにみています。

過去1年間の堅調な株式市場は、主に一部の大型テクノロジー企業によってけん引されてきました。2024年において、投資家は景気後退リスク、利下げタイミング、地政学的な緊張を懸念したため、大型株やハイクオリティ銘柄を選好しました。また、大型テクノロジー企業は、初期段階のAIの恩恵の波を受けることができたと思われています。しかし、金利水準が緩やかになり、幅広い銘柄が注目されるにつれて、超大型テクノロジー企業の収益成長が他のセクターに比べ鈍化し始めた場合には、ある程度の警戒が必要だと考えています。

長期的には、脱炭素に関連する経済分野でイノベティブなソリューションを提供する企業は今後数年にわたり堅調な成長を達成できる可能性があると考えています。またそれらの企業は、消費者の間での脱炭素への参加や政策といった支援材料（例えば、欧州グリーン・ディール、COP26（国連気候変動枠組条約第26回締約国会議）-COP28、EU（欧州連合）のネット・ゼロ産業法案や重要原材料法案）からも恩恵を受ける立場にあるとみえています。さらに米国では、インフレ抑制法やインフラ投資と雇用法、半導体法（CHIPS and Science Act）などの気候変動に関する主要な法案が成立しました。これら新しい3つの法律により、米連邦政府は気候変動に対処するための年間支出を3倍に増やしています。グリーン水素、バッテリー製造、電気自動車、ソーラー・パネルの製造などの分野でその恩恵が受けられると思われれます。このようなことから、我々は、長期的かつシクリカル（景気変動の影響を受けやすい）な成長性へのエクスポージャーを取りながら、脱炭素化の実現に貢献するイノベティブな企業からなるポートフォリオを引き続き維持していきます。

クリーン・エネルギー生成は急速に成長し、時の経過とともに化石燃料と入れ替わり、ネット・ゼロの目標達成のための重要な要素となるでしょう。2024年以降の主要成長分野には、サプライチェーンとパネルのコストの改善が続き、受注残が堅調に推移している大規模な太陽光発電所プロジェクトがあります。再生可能エネルギーによる発電が急速に増加しており、風力発電や太陽光発電が天候や日照の状況に左右される特性から、大規模なエネルギー貯蔵容量が必要になると考えています。バッテリー価格が下落し、サプライチェーン問題も概ね解決しており、強力な政策支援があるため、エネルギー貯蔵は今後数年で拡大していくとみえています。エネルギー貯蔵は、住宅向けおよび大規模な発電所向け双方から需要があります。

産業や製造業分野のゼロ・カーボンへの転換は、建物や生産手段、その他のインフラに対して、大規模な投資と大幅な変化を必要とします。中期的には、電力の送電網の強化、スマート・シティやスマート・ビルディングの機能向上、政策支援などが投資サイクルを牽引していくと考えています。こうした強化や向上などを可能にするためには、大量の重要原材料が必要となります。さらに、シクリカルな景気回復も、このような重要原材料に対する需要環境を下支えしています。このような環境から、特に銅発掘会社、リチウム・メーカー、産業用ガス企

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

# イノベティブ・カーボンニュートラル戦略ファンド

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／株式

作成基準日：2024年09月30日

※ このページは「イノベティブ・カーボンニュートラル戦略マザーファンド」について、ヴォヤ・インベストメント・マネジメント・カンパニー・エルエルシーから提供を受けたデータおよび情報を基に記載しています。

## ファンドマネージャーコメント

業、電力インフラ・プロバイダーに注目しています。

交通・輸送の脱炭素化は交通・輸送経済の多くの革新的な企業によって進められています。自動車メーカー、ソフトウェア、半導体、代替燃料、物流企業などに収益機会があると考えています。交通・輸送分野での電化が、脱炭素の目標達成に向けた最もインパクトのある戦略の1つになっています。我々は、電気自動車メーカーや電源やバッテリー管理ソリューションを開発している企業を通じて交通・輸送の電化のトレンドを捕捉しています。

我々は、脱炭素経済に向けた数十年に及ぶ道のりの初期段階にいると考えています。この高い目標を達成するためには、今後数十年にわたって巨額の投資が必要となるでしょう。脱炭素化のためのイノベーションを成功させた企業は、売上高と利益成長という観点で、明確な恩恵を受けることになるでしょう。他の産業が脱炭素に向けて、それらのソリューションを活用すると考えられるからです。クリーン・エネルギー生成、産業用エネルギーの転換、交通・輸送の変革の分野でのこのような初期段階の投資機会を発掘することは、長期的なリターンを獲得するための魅力的なアプローチであると考えています。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.



# イノベティブ・カーボンニュートラル戦略ファンド

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／株式

作成基準日：2024年09月30日

## ファンドの特色

- イノベティブ・カーボンニュートラル戦略マザーファンド（以下「マザーファンド」といいます。）への投資を通じて、世界の取引所に上場している株式から、主として脱炭素化社会実現に向けた取り組みやイノベーションに貢献する企業、あるいはその恩恵を受けることが期待される企業の株式に投資を行います。
    - 預託証書（DR）、上場投資信託証券にも投資を行う場合があります。
    - 企業の成長見通し、財務健全性、バリュエーション等の分析・評価を行い、銘柄選択を行います。
  - テクノロジー・イノベーションとクリーン・エネルギーに関連する企業の投資戦略に強みをもつ、ヴォヤ・インベストメント・マネジмент・カンパニー・エルエルシーが実質的な運用を行います。
    - マザーファンドの運用にあたっては、ヴォヤ・インベストメント・マネジмент・カンパニー・エルエルシーに運用の指図に関する権限の一部を委託します。
  - 実質組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。
    - 基準価額は為替変動の影響を受けます。
- ※ 資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。
- ※ ファンドは、委託会社が定義する「ESG投信」に該当します。  
委託会社におけるESG投信の定義および該当ファンドは、ESG投信の規制動向、ESGに関する国内外の情勢、委託会社の認定基準の見直し等により、今後、変更となる場合があります。

## 投資リスク

### 基準価額の変動要因

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資者の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 運用の結果として信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。
- 投資信託は預貯金と異なります。また、一定の投資成果を保証するものではありません。
- 当ファンドの主要なリスクは以下の通りです。

### ■ 株式市場リスク

【株価の下落は、基準価額の下落要因です】

内外の経済動向や株式市場での需給動向等の影響により株式相場が下落した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、個々の株式の価格はその発行企業の事業活動や財務状況等によって変動し、株価が下落した場合はファンドの基準価額が下落する要因となります。

### ■ 信用リスク

【債務不履行の発生等は、基準価額の下落要因です】

ファンドが投資している有価証券や金融商品において債務不履行が発生あるいは懸念される場合、またはその発行体が経営不安や倒産等に陥った場合には、当該有価証券や金融商品の価格が下がったり、投資資金を回収できなくなったりすることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

### ■ 為替変動リスク

【円高は基準価額の下落要因です】

外貨建資産への投資は為替変動の影響を受けます。ファンドが保有する外貨建資産の価格が現地通貨ベースで上昇する場合であっても、当該現地通貨が対円で下落する（円高となる）場合、円ベースでの評価額が下落し、基準価額が下落することがあります。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



## イノベティブ・カーボンニュートラル戦略ファンド

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／株式

作成基準日：2024年09月30日

## 投資リスク

## ■ カントリーリスク

【投資国の政治・経済等の不安定化は、基準価額の下落要因です】

海外に投資を行う場合には、投資先の国の政治・経済・社会状況の不安定化、取引規制や税制の変更等によって投資した資金の回収が困難になることや、その影響により投資する有価証券等の価格が大きく変動することがあり、基準価額が下落する要因となります。

## ■ 流動性リスク

【市場規模の縮小・取引量の低下により、不利な条件での取引を余儀なくされることは、基準価額の下落要因です】

有価証券等を大量に売買しなければならない場合、あるいは市場を取り巻く外部環境に急激な変化があり、市場規模の縮小や市場の混乱が生じた場合等に、十分な数量の売買ができなかったり、通常よりも不利な価格での取引を余儀なくされることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

## その他の留意点

〔分配金に関する留意事項〕

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。
- ファンドは、特定のESGテーマに絞った銘柄選定を行いますので、市場全体の動きとファンドの基準価額の動きが大きく異なることがあります。また、市場環境、金利および経済・法制度・金融面の諸情勢が、特定のESGテーマに対して著しい影響を及ぼすことがあります。当該ESGテーマに属する銘柄は、これらの情勢等に対して同様の反応を示すことがあります。
- ESG投資は、銘柄選定プロセス等において、ESG評価提供機関等が提供する各種データを利用する場合があります。当該データは、有価証券の発行体による情報開示に依存していることが多く、データの即時性、完全性、比較可能性は保証されていません。また、提供機関ごとにデータ収集方法・評価方法等が異なるため、同一発行体に対するESG評価が大きく異なる場合があります。
- ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性、換金申込みの受け付けが中止となる可能性、既に受け付けた換金申込みが取り消しとなる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性等があります。



## イノベティブ・カーボンニュートラル戦略ファンド

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／株式

作成基準日：2024年09月30日

## お申込みメモ

## 購入単位

お申込みの販売会社にお問い合わせください。

## 購入価額

購入申込受付日の翌営業日の基準価額

## 購入代金

販売会社の定める期日までにお支払いください。

## 換金単位

お申込みの販売会社にお問い合わせください。

## 換金価額

換金申込受付日の翌営業日の基準価額

## 換金代金

原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目からお支払いします。

## 信託期間

無期限（2021年3月30日設定）

## 決算日

毎年4月7日（休業日の場合は翌営業日）

## 収益分配

決算日に、分配方針に基づき分配金額を決定します。委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。

分配金受取りコース：原則として、分配金は税金を差し引いた後、決算日から起算して5営業日目までにお支払いいたします。

分配金自動再投資コース：原則として、分配金は税金を差し引いた後、無手数料で再投資いたします。

※販売会社によってはいずれか一方のみの取扱いとなる場合があります。

## 課税関係

- 課税上は株式投資信託として取り扱われます。
- 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に限りNISA（少額投資非課税制度）の適用対象となります。
- 当ファンドは、NISAの「成長投資枠（特定非課税管理勘定）」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
- 配当控除および益金不算入制度の適用はありません。

## お申込不可日

以下のいずれかに当たる場合には、購入・換金のお申込みを受け付けません。

- ニューヨークの取引所の休業日
- ニューヨークの銀行の休業日

## イノベティブ・カーボンニュートラル戦略ファンド

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／株式

作成基準日：2024年09月30日

## ファンドの費用

## 投資者が直接的に負担する費用

- 購入時手数料  
購入価額に**3.30%（税抜き3.00%）を上限**として、販売会社毎に定める手数料率を乗じた額です。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- 信託財産留保額  
ありません。

## 投資者が信託財産で間接的に負担する費用

- 運用管理費用（信託報酬）  
ファンドの純資産総額に**年1.925%（税抜き1.75%）**の率を乗じた額です。
- その他の費用・手数料  
以下のその他の費用・手数料について信託財産からご負担いただきます。
  - 監査法人等に支払われるファンドの監査費用
  - 有価証券の売買時に発生する売買委託手数料
  - 資産を外国で保管する場合の費用 等※上記の費用等については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※ 上記の手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

## 税金

## 分配時

所得税及び地方税 配当所得として課税 普通分配金に対して20.315%

## 換金（解約）及び償還時

所得税及び地方税 譲渡所得として課税 換金（解約）時及び償還時の差益（譲渡益）に対して20.315%

- ※ 個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。法人の場合は上記とは異なります。
- ※ 外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。
- ※ 税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。
- ※ 少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」をご利用の場合  
少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」は、少額上場株式等に関する非課税制度であり、一定の額を上限として、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託等から生じる配当所得および譲渡所得が無期限で非課税となります。ご利用になれるのは、販売会社で非課税口座を開設し、税法上の要件を満たした公募株式投資信託等を購入するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



## イノベティブ・カーボンニュートラル戦略ファンド

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／株式

作成基準日：2024年09月30日

## 委託会社・その他の関係法人等

委託会社	ファンドの運用の指図等を行います。 三井住友DSアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第399号 加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、 一般社団法人第二種金融商品取引業協会 ホームページ： <a href="https://www.smd-am.co.jp">https://www.smd-am.co.jp</a> コールセンター： 0120-88-2976 [受付時間] 午前9時～午後5時（土、日、祝・休日を除く）
受託会社	ファンドの財産の保管および管理等を行います。 株式会社SMBC信託銀行
販売会社	ファンドの募集の取扱い及び解約お申込の受付等を行います。
投資顧問会社	マザーファンドの運用指図に関する権限の一部の委託を受け、信託財産の運用を行います。 ヴォヤ・インベストメント・マネジメント・カンパニー・エルエルシー

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



# イノベティブ・カーボンニュートラル戦略ファンド

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／株式

作成基準日：2024年09月30日

## 販売会社

販売会社名	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人 金融商品取引業協会	日本一般社団法人 投資顧問業協会	金融先物取引業協会	一般社団法人 投資信託協会	備考
あかつき証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第67号	○		○	○		
a uカブコム証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第61号	○	○	○	○		
S M B C日興証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第2251号	○	○	○	○		
株式会社S B I証券	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第44号	○	○		○		
ぐんぎん証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第2938号	○					
中銀証券株式会社	金融商品取引業者 中国財務局長（金商）第6号	○					
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第165号	○	○	○	○		
むさし証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第105号	○	○				
楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第195号	○	○	○	○		
株式会社足利銀行	登録金融機関 関東財務局長（登金）第43号	○			○		
株式会社イオン銀行（仲介）	登録金融機関 関東財務局長（登金）第633号	○					※1
株式会社京葉銀行	登録金融機関 関東財務局長（登金）第56号	○					
株式会社十六銀行	登録金融機関 東海財務局長（登金）第7号	○			○		
株式会社中国銀行	登録金融機関 中国財務局長（登金）第2号	○			○		
株式会社東京スター銀行	登録金融機関 関東財務局長（登金）第579号	○			○		
株式会社東和銀行	登録金融機関 関東財務局長（登金）第60号	○					
株式会社徳島大正銀行	登録金融機関 四国財務局長（登金）第10号	○					
株式会社鳥取銀行	登録金融機関 中国財務局長（登金）第3号	○					
株式会社名古屋銀行	登録金融機関 東海財務局長（登金）第19号	○					
株式会社百十四銀行	登録金融機関 四国財務局長（登金）第5号	○			○		
株式会社北陸銀行	登録金融機関 北陸財務局長（登金）第3号	○			○		※2
株式会社北海道銀行	登録金融機関 北海道財務局長（登金）第1号	○			○		※2
アルプス中央信用金庫	登録金融機関 関東財務局長（登金）第251号						
大垣西濃信用金庫	登録金融機関 東海財務局長（登金）第29号						
北伊勢上野信用金庫	登録金融機関 東海財務局長（登金）第34号						
京都中央信用金庫	登録金融機関 近畿財務局長（登金）第53号	○					
京都北都信用金庫	登録金融機関 近畿財務局長（登金）第54号						
呉信用金庫	登録金融機関 中国財務局長（登金）第25号						
佐賀信用金庫	登録金融機関 福岡財務支局長（登金）第25号						
白河信用金庫	登録金融機関 東北財務局長（登金）第36号						
静岡信用金庫	登録金融機関 東海財務局長（登金）第43号	○					

備考欄について

※1：委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社※2：ネット専用

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



# イノベティブ・カーボンニュートラル戦略ファンド

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／株式

作成基準日：2024年09月30日

## 販売会社

販売会社名	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人 金融商品取引業協会	日本一般社団法人 投資顧問業協会	金融先物取引業協会 一般社団法人	一般社団法人 投資信託協会	備考
高松信用金庫	登録金融機関	四国財務局長（登金）第20号					
但馬信用金庫	登録金融機関	近畿財務局長（登金）第67号					
多摩信用金庫	登録金融機関	関東財務局長（登金）第169号	○				
東濃信用金庫	登録金融機関	東海財務局長（登金）第53号	○				
豊田信用金庫	登録金融機関	東海財務局長（登金）第55号	○				
浜松磐田信用金庫	登録金融機関	東海財務局長（登金）第61号					
兵庫信用金庫	登録金融機関	近畿財務局長（登金）第81号	○				
福岡ひびき信用金庫	登録金融機関	福岡財務支局長（登金）第24号	○				
福島信用金庫	登録金融機関	東北財務局長（登金）第50号					
大和信用金庫	登録金融機関	近畿財務局長（登金）第88号	○				

## 当資料のご利用にあたっての注意事項

- 当資料は、三井住友DSアセットマネジメントが作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、将来に関し述べられた運用方針・市場見通しも変更されることがあります。当資料は三井住友DSアセットマネジメントが信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 投資信託は、値動きのある証券（外国証券には為替変動リスクもあります。）に投資しますので、リスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。したがって元本や利回りが保証されているものではありません。
- 投資信託は、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また登録金融機関でご購入の場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。
- 当ファンドの取得のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡する最新の投資信託説明書（交付目論見書）および契約締結前交付書面等の内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。投資信託説明書（交付目論見書）、契約締結前交付書面等は販売会社にご請求ください。また、当資料に投資信託説明書（交付目論見書）と異なる内容が存在した場合は、最新の投資信託説明書（交付目論見書）が優先します。

■ 設定・運用

